



登山時報 6月号目次
 ヒマラヤの東 中村保 / 表紙絵・熊谷権
 セブンサミット顛末記 橋本 久・久末真紀子
 フォトエッセイ・宮澤健二 / 山のギャラリー 剣岳・豊田幸長
 春山の遭難事故多発に思う 斉藤義孝
 いま改正保険業法を考える
 大日岳訴訟 第一審勝訴
 不思議を発見する山歩き 小泉武栄
 気象情報の見方と使い方 野尻英一
 海外の登山を読む 海津正彦
 J W A F クリック / 専門委員会報告 / 全国連盟の活動 / 事務局から
 地元会員特選ミニガイド 北海道 / 和歌山
 インタビュー・小川潔さん / ブックエンド / お勧め山道具
 今月の人と山「山本宣治」・西本武志 / 会報閲覧室

連盟ニュース
257

神奈川 6

2006.6.13

県連のスケジュール

6月		7月		8月	
1 木		1 土	リーダー学校机上	1 火	救助隊会議
2 金		2 日	救助隊トレーニング リーダー学校補講	2 水	常任理事会
3 土		3 月	常任理事会	3 木	
4 日		4 火	救助隊会議	4 金	
5 月	常任理事会	5 水		5 土	
6 火	救助隊会議	6 木	ハイキング机上	6 日	
7 水		7 金		7 月	遭対部会
8 木	ハイキング机上	8 土		8 火	事務局長会議
9 金		9 日		9 水	
10 土	リーダー学校 机上	10 月	遭対部会	10 木	
11 日	リーダー学校 実技	11 火	事務局長会議	11 金	
12 月	遭対部会	12 水		12 土	
13 火	事務局長会議	13 木		13 日	
14 水		14 金		14 月	事務局部会
15 木		15 土		15 火	
16 金		16 日		16 水	
17 土	ハイキング実技	17 月		17 木	
18 日	ハイキング実技	18 火	事務局部会	18 金	
19 月	事務局部会	19 水		19 土	
20 火		20 木		20 日	ハイキング実技
21 水	ハイキング懇談会	21 金		21 月	
22 木		22 土	リーダー学校 机上	22 火	リーダー学校 机上
23 金		23 日	リーダー学校 実技	23 水	
24 土	遭対部講習会 読図(机上)	24 月		24 木	
25 日	遭対部講習会 読図(実技)	25 火		25 金	
26 月	クリーンハイク実委まとめ	26 水		26 土	リーダー学校 実技
27 火		27 木		27 日	リーダー学校 実技
28 水		28 金		28 月	自然保護委員会
29 木		29 土		29 火	
30 金		30 日		30 水	
		31 月	自然保護委員会	31 木	



交流ハイキング

第22回交流ハイキング	相模勤労者山岳会	2
交流ハイキング感想	小竹清子	3
新スポーツ連盟神奈川県連盟総会および40周年レセプションに参加して		4
2006クリーンハイク無事終了	吉岡広明	5
水質検査速報	自然保護委員会	5
神奈川から静岡へ平和の願いを	中山 建生	6
2006年度ハイキング委員会活動報告		7
鷹取山岩トレに参加して	藤沢山の会 萩原福子	7
遭対基金を守るため、署名運動にご協力	川崎HC資料	8
登山道整備ボランティア募集		8
自然観察会	自然保護委員会	9
常任理事会報告		9
事務局長会議報告		10
自然保護委員会報告	羽生田	10
詳細決定! 道迷い遭難を防ぐ講習会(再録)	遭難対策部	11
神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定		12
登山時報紹介・県連のスケジュール		14



神奈川県勤労者山岳連盟
 〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1-18-2 永田ビル3階
 発行責任者 後藤 真一 編集責任者 村松 勝
 TEL/FAX 045-434-2726 http://www.k-rouzan.net/

第22回交流ハイキング

横浜・寺家ふるさと村

5月21日(日) 晴れ 相模勤労者山岳会

昨年は残念ながら雨で中止になってしまい、今年は！と力瘤が入って少し早めに準備を始めた。数ヶ所下見をしたが、新しい山の開拓はなかなか難しい。以前やった八菅山の隣、鳶尾山を候補にして進めていたが、募集開始直前になって『蛭』がいるとの情報もたらされ、急遽横浜の『寺家ふるさと村』へ変更となった。川崎、町田の境目にありながら、見回すと小高い森とたんぼ、畑が広がって



る貴重な空間です。

今年は不安定な天候が続き、やきもきしたが、当日は晴れ！！

ふるさと村四季の家の近くで受付を開始。車椅子の方は3人の予定だったが、そのお母さんも入って4人。歩きの班と合計4班、6歳から86歳まで約80人、簡易トイレを背負った頼もしい会員も一緒に、10時出発。ちょうど田植えや代掻きをしていて、蛙の声も懐かしい。



『ふるさとの森』の裾野を回って熊の池からいよいよ坂道にかかる。車椅子用に作ったロープを繋ぎ、前で引く、横から、車椅子を押す人と声を掛け合い、力を合わせて進む。



初めて参加した女性は笑顔の裏でちょっと肩に力が入ったようだ。回りは緑が濃くなったコナラやクヌギの林、階段を登り、降りる。大池のほとりで舗装された道路に出て一安心、女性もロープを持つことができた。池には杭の上でのどかに亀が甲羅干し。たんぼ脇の水路では網でドジョウ取りの子ども達もいる。なんだか心が穏やかに微笑みたくなり、立ち止まっては幼い頃の思い出話をし、声を掛けてみる。



お昼は木立ちの広場。今年は豚汁はないが、おむすびに木々の緑がごちそうだ。玉川アルプホルンクラブのメンバーが赤いチョッキに帽子を被って登場し、ホルンを組み立てる。颯爽と6本の手作りホルンが並び、演奏の間の音の出る仕組みや音色の話も興味深い。もう交流ハイキングに欠かせないメンバーになったよう、『いつも感謝！』です。

次は子ども達のリコーダー、ピアノ、鈴などの演奏に合わせて『ふるさと』、『アル

小田原ナーゲル 報告 春日谷 計40名			
相模勤労者山岳会 報告 藤田耕市 計38名(男26:女12)			
4/29-5/3 アルプス雷鳥沢(2)	5/3-5 霧ヶ峰・鎌ヶ池-和田峠-三峰山-高遠山(1)	津白根山(2)	5/21 交流ハイク
5/1-3 雲取山-笠ヶ岳(1)	5/3-5 小川山(2)	5/3-6 甲武信岳~雲取山(1)	5/24 第2例会
5/2-5日 北アルプス穂高岳・南陵コノ尾根(3)	5/3-5 上信越、放山・山	5/3-6 小川山(3)	5/28 クリハク
5/2-7 南アルプス赤石岳~荒川三山(4)	5/3-5 草津、四阿山・草	5/4 丹沢・葛葉川(1)	6/4 四町四反の沢
5/2-7 南アルプス赤石岳~荒川三山(4)	5/3-5 草津、四阿山・草	5/10 第1例会	
こだまの会 4名			
みずなら山の会 報告 松本敏孝 計34名(男20名 女14名)平均55歳			
5/2-5 八甲田 山スキー(5)	5/21 奥多摩 つづら岩(8)	5/27 丹沢 ガリアン(6)	(2)
5/2-5 後立山 雪山(3)	5/21 丹沢 蛭ヶ岳ハイ	5/28 丹沢 クリーンハイ	6/4 会津七つ岳 山開き
5/2-5 北八ヶ岳 雪山(4)	ク(3)	ク(24)	(2)
5/3-4 丹沢 縦走(5)	5/27 丹沢 源次郎沢(7)	6/2-4 月山 スキー(4)	6/25 丹沢 県連読図山行
	5/27 丹沢 セドノ沢右(3)	6/3-4 北ア 錫杖岳 岩登	(4)
久良岐ハイキングクラブ 報告 三上茂 計9名(男5女4)平均58歳			
5/13 室内例会(7)	5/22 鍋割山(1)	止	6/11 定例山行
5/21 鍋割山(8)	5/28 クリーンハイク中	6/3 室内例会(5)	
緑と星スキー山の会 2名			
さがみ山友会 18名			
こまくさハイキングクラブ 報告 山田日出子 計15名(男4:女11)平均63歳			
4/9 ウォーキング(東逗子-森戸川)(14)	5/21 日向山(バスハイク)	6/25 城山	
	6/11 箱根駒ヶ岳-神山		
横浜山楽会 報告、佐竹範明 計17名(男9 女8)平均63歳			
6/4 赤城・長七郎山	6/24-25 読図講習・労山	7/4 室内例会	山名未定
6/8 室内例会	主催	7/14-17 白峰三山	
6/10 月例山行 塔ガ岳	7/1-2 白毛門	7/16 中央線シリーズ	
カモの会 計64名(男 女)平均 歳			
白嶺岳和会 10名			
雪童山の会 計20名(男 女)平均 歳			
地平線の会 8名			
裏山探検隊 9名			
やま++ 報告 柴田勇作 計11名(男6:女5)平均46歳			
4/30 鍋割山(4)	5/4 燕山ほか(1+1)	2)	6/18 沢
5/3-5 白馬乗鞍岳スキー(2)	5/20 RTC(5+2)	6/4 六つ石山・マイナー	6/24-25 上州武尊山
	5/24 例会	6/8-9 尾瀬	6/28 例会
5/3-5 奥秩父・和名倉山大常木山マイナー(6)	5/25 乾徳山(4)	6/11 笹山・マイナー	
	5/28 クリーンハイク(8+	6/14 勉強会(沢)	



神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定

川崎勤労者山岳会 報告：佐々木利江 計49名(男31 女18)平均 歳

5/2-5 奥穂高(8)	5/20N-21 モロクボ沢(4)	6/4 議案書・印刷、発送
5/3-5 F C 小川山(3)	5/28 刈-刈(24)	6/7 運営委員会
5/14 登)読図・大杉山(7)	その他4つの山行	6/25 総会

川崎ハイキングクラブ 報告 樋渡輝彦 計111名(男51 女60) 平均57歳

4/16 破風山(4)	(9)	質検査	6/11 救急法訓練
4/21 釜伏山-二本木峠(6)	5/10 運営委員会	5/28 クリーンハイク	6/17-18 入笠山
4/22-23 天城山(10)	5/14 天狗岳(新人教育実技)(6)	5/30-31 恵那山	6/18 モミソ沢
4/23 小倉山(9)		6/1 臨時運営委員会	6/18 笠取山
4/26 例会(60)	5/14 馬頭刈山(15)	6/2-4 南八ヶ岳	6/21-22 筑波山・男体山
4/29-30 小金沢連嶺(例会山行)(7)	5/20-21 切込湖・苅込湖	6/3-4 四阿山	6/25 総会
5/3-5 唐松岳(9)	5/20-21 茅ヶ岳	6/3-4 瑞垣山	7/2 三頭山(例会山行)
5/8 新人教育(机上学習)	5/24 例会	6/4 本仁田山(例会山行)	
	5/27 クリーンハイク水	6/7 運営委員会	

川崎柴笛クラブ 計23名(男15 女8) 平均48歳

アルパインクラブ横浜 計42名(男23:女19)平均37.4歳

4/28 川苔山(1)	5/1 越沢バットレス、御岳ボルダー(2)	朝日岳(4)	5/17 川苔山(2+1)
4/29 丹沢 塔ノ岳(1)		5/3-6 浅草岳(1+1)	5/21 岩講習 三ツ峠(13)
4/29-30 仙丈岳(1+1)	5/3 丹沢 塔ノ岳(1+2)	5/3-7 黒部五郎岳~槍ヶ岳(3)	5/22 丹沢 表尾根(1+4)
4/29-30 雲取山(2)	5/3-5 小川山(1+3)	5/3-8 剣岳 小窓尾根(3)	5/23 牛奥ノ雁ガ腹摺山(2+1)
4/30 丹沢 鍋割山~塔ノ岳(1)	5/3-6 小川山(8)	5/5-6 八ヶ岳 天狗岳(1)	
4/30 丹沢 檜洞丸(2)	5/4 金峰山(4)	5/10 丹沢 大山(2)	
	5/3-6 蓮華温泉、雪倉岳		

横浜ハイキングクラブ 報告 白鳥松男 計55名(男19:女36)平均59歳

4/19 浜石岳(5)	5/11 例会	5/28 丹沢クリーンハイク	6/7 高尾山琵琶滝コース
4/23 餅つき山行 景信山(13)	5/14 小沢岳(西上州)(20)	5/31 大菩薩峠	6/8 例会
4/29 滝子山(8)	5/21 交流ハイク 寺家ふるさと村	6/3 天城万二郎万三郎岳	6/18-19 金峰山
5/3-4 七面山(14)	5/23 畦ヶ丸(西丹沢)	6/4 不老山	6/25 茅ヶ岳

横浜こぶしの会 報告 田辺美由紀 計25名(男16人 女9人)平均49歳

5/6 箱根ハイキング(4)	ダ学校岩トレ	6/4 沢トレ・源次郎	黒戸尾根)
5/3-5 丹沢山檜洞丸(1)	5/21 岩トレ・幕岩(5)	6/ 会低山(未定)	7/ 会低山(未定)
5/7 広沢寺(1)県連リー	5/28 クリンハイク(12)	7/ 慰霊登山(甲斐駒・	

横浜わらび山の会 報告：初山輝夫 計18名(男6 女12)

5/3-4 金峰山(2)	5/21 交流ハイク 寺家故郷村(5)	(2)	6/24 定例会
5/3-7 立山、奥大日(3)		5/27 定例会	6/25 富士見塚
5/6 大楠山(1)	5/21 朝日山 菜畑山(4)	5/28 丹沢クリーンハイク(7)	7/2-3 城ヶ崎ハイク
5/14 二子山森戸川(10)	5/21 倉掛山(8)	5/29 滝子山(4)	7/9 鍋割山
5/14 八王子八峰登山大会(1)	5/21-22 越後十文字峡、丹後山、大水上山、中の岳(2)	6/3-5 子持山 稲包山 尾瀬ヶ原	7/16 櫛形山
5/16 丹沢ヨモギ尾根(4)	5/25 大野山(2)	6/11 棒ノ折山	7/22-23 蓼科山
5/19-21 飯縄山、奥裾花(1)	5/25 大倉尾根(堀山)	6/18 大野山	

藤沢山の会 報告 清水 守 計93名(男42:女51)平均60歳

5/3-4 日光白根山(7)	5/10 石棚山(9)	6/3-4 天狗山・男山	6/11 大岳山
5/2-5 西穂高岳(6)	5/21 三国山(6)	6/3-4 八海山	6/24-25 県連読図山行
5/5 富士周辺(7)	5/20-22 久住・阿蘇(4)	6/9-10 赤岳	7/8 読図山行
5/6 節刀ヶ岳(11)	ほか30山行	6/10 広沢寺岩登り	7/15 沢登り



ブス一万尺』などを歌った。

13時30分、午後の行程は民家や水車小屋などがある、方面へ。竹林の道は最後の階段、その間も筍の話で盛り上がる。どの班もそれぞれに『交流』をしているようだ。最後は陶芸工房へ寄って元の場所へ戻り、「お疲れ様でした」。

国際障害者年に山岳会ができること、『一緒に山へ』と始めたが、県連の皆さんや一般の方の協力が大きく22回を数えることができた。

アルプホルン、里山、子ども達、高齢の方

の参加など少し色が変わりつつあるが、続けていく事が大切であると感じている。

写真が下記のアドレスで見ることができます。

http://onlinelab.jp/community/album/cm_al_cvr.php?sel_p_album_id=jppb00137093&alb_click

パスワードの欄には"kouryuu"といれてください。データをダウンロードして印刷することやプリントを注文(有料)することもできます。

第22回 相模労山障害者交流ハイクに参加して

川崎労山：小竹清子

5月第3日曜日、毎年この週は相模労山の障害者交流ハイクとして予定をあげています。今年は予定していた山に蛭情報が入った為、横浜市内の緑区寺家町「ふるさとの森」で行われました。この交流ハイク相模の皆さんに会えるだけでなく、他の労山の懐かしい人の顔も見られるのでとても楽しみにしています。今回、思いがけない人に会う事ができ、「障害者ハイクを通じて出来た人の輪」に感動してしまいました。

開催地の寺家「ふるさと村」周辺は名前の如く多くの谷戸を持つ自然が残され田園風景が広がっていました。里山の雑木林にはクヌギ、サクラ、モミジ、ハリギリなどが育ち、

足元にはツルフネ草やニリン草など可憐な花がさいていました。かつて炭焼きなどで切り落とされたクヌギやサクラの切り株が成長し立派な2次林を形成していました。その様子からもこの里山が人々の生活と密着していた事を忍ばせていました。谷戸では、田植姿や苗代作りの姿が見られ、今も里山を中心に寺家の人々の生活が営まれていました。鳴く蛙の声、苗代の虫をついばむ鳥たち、網を持った親子ずれなどの懐かしい風景を目にした時、幼い頃の忘れかけていた心を取り戻したような気がしました。今回の交流ハイクは、時間的にも余裕があり、いつものような緊張感はなく和やかな雰囲気の中でゆっくりと草木を

観察しながら進む事が出来ました。

介助を受けるKさんは交流ハイクには何回も参加されていたりしゃる方で、自分の意思をはっきりおっしゃって下さったので安心して介助できました。昼食時にはスイス・アルプホルンの演奏を聞いたり子供たちの演奏に合わせて歌を歌ったりと楽しいひと時を過ごす事が出来ました。

私が初めて障害者交流ハイクに参加したのは百倉山、元会員だったSさんに誘われ娘と2人で参加したのがきっかけでした。担当したのは重度の障害を持った青年「オットウ君」だったように記憶しています。彼は言葉を話す事は出来ませんでした、「オットウ」と言う言葉で感情表現してくれました。言葉は通じなかったけれど素直な喜びの表現が伝わってきた時、うれしくなって参加して本当によかったと思いました。介助にいった私は、反対に彼からとても爽やかなものをもらいました。それ以来時間が許す限り参加しています。もう一つ感動したのは、相模労山の取り組みと仲間とのチームワークでした。日頃鍛えられた山の技術を生かし、息のあったチームプレーで見事車椅子を山頂に導き、登山と云う行為を通し、「自然に触れる喜びを障害者と共に分かち合う」と云う、精神に感動してしまいました。

私自身の登山を振り返った時、「自分のた

めに登る事」と「山岳自然の保護」に関わる事しか気がつかなかった。私にとって相模労山の行動は「目から鱗」でした。

早くからこの事に取り組んでいる相模労山は素晴らしいと思う。又神奈川県労山にとって貴重な存在であり誇りだと思います。

時代の変化や登山者の考えが多様化しているなか、22年間継続していくには大変なご苦労があったのではないかと思います。登山行為そのものは、意志さえあればだれでも登る事が出来ます。しかしそれを地域活動に生かし継続していくには、会員一人一人がこの事を理解し、使命感、信頼感、チームワークがあつてこそ実現できるのではないかと思います。古い人、新しい人、共に行事に一つの事に取り組んでいる姿を見る時、相模の良き伝統が引き継がれている事を心から素晴らしいと思うらやましくもあります。また交流ハイクを多くの労山仲間が参加し支えている事も素晴らしい事だと思います。ここにもしっかりとした労山の仲間意識が働いているように思います。今回再開された事を本当にうれしく思いました。心より乾杯です。

私達参加者は、活動の一端を担う事で、自分の山登りでは味わえない喜びや爽やかさを享受する事が出来ます。相模の皆さんには色々ご苦労があると思いますがこれから是非続けて行ってください。

新スポーツ連盟神奈川県連盟総会および 40周年レセプションに参加して

去る5月20日に横浜市従会館で新スポーツ連盟神奈川県連盟の総会が開催されました。

引き続き「いせやま会館」において神奈川県連盟40周年のレセプションが開催され村松が参加しました。

総会は36人(全体で40人)の参加で成立しました。また、来賓の全国連盟長尾会長からスポーツ連盟は種目を越えた団結と平和社会的課題での先進的な活動という2つの優れた特徴があるという意見が印象的でした。

労山としては事故を減らすべく、遭対活動と教育活動に力を入れていることを報告しました。

レセプションは50人(うち来賓15人)が参加しました。来賓も多くいろいろな団体との交流ができたと思います。またトランペット奏者の松平さんの演奏が花を添えてくれました。

村松



詳細決定！ 道迷い遭難を防ぐ講習会

～ 私は何処？ どっちへ行くべき？ 道迷いを防ぐ講習会～



主宰：神奈川県勤労者山岳連盟 遭難対策部

4月の県連ニュースでお知らせした道迷いを防ぐ講習会(読図講習会)の詳細が決定いたしましたので、お知らせします。

地図の見方、読み方の机上講習を行い、実際に歩きながら身につけていきたいと考えています。是非多数ご参加ください。

読図机上講習

日 程：2006年6月24日(土) 午前10時～午後4時
場 所：横浜市神奈川地区センター(JR東神奈川駅・京急仲木戸駅徒歩5分)
横浜市神奈川区本町8-1(電話045-453-7350)
持 ち 物：2万5線分の1地図(大山)、登山地図、コンパス(シルバタイプ)、
定規(50cm程度のもの)、蛍光ペンまたは色鉛筆(6色以上)、筆記具
参 加 費：1000円(労山以外の人2000円)

読図実技

日 程：2006年6月25日(日)
集合時間：午前8時
集合場所：小田急秦野駅改札口(バスでヤビツ峠まで移動)
秦野駅～ヤビツ峠～三ノ塔
持 ち 物：日帰りハイクの装備・2万5線分の1地図(大山)、登山地図、コンパス(シルバタイプ)
参 加 費：2000円(労山以外の人3000円)
雨 天 時：順延7月9日(日)(前日午後7時天気予報降水確率50%以上の場合)

問い合わせは、
横浜わらび山の会・黒川 (TEL, FAX045-231-9832・

携帯090-4097-8060)

アルパインクラブ横浜・末吉(携帯090-7839-9257)まで

申し込み方法

期 限：6月15日

電話・ファックスでのお申し込みは、

横浜わらび山の会・黒川(TEL, FAX045-231-9832)

メールでのお申し込みは、

アルパインクラブ横浜・末吉(メールアドレス e_sueyoshi@ybb.ne.jp)

*申し込み時に下記の記載をお願いします。

- 会名、お名前、住所、連絡先、メールアドレス、
- (1) なにを目的として講習会に参加したのか、
- (2) 自分の知らないこと分からないことはなにか
- (3) 講習会に期待することはなにか

労山ホームページにも掲載しています。

みなさんどうぞお楽しみに！

当者会議準備 今年は事故防止に重点を置く。

会計報告 一部連盟費の遅れる会がある。(押本)

新スポーツ連盟総会報告 連盟費の扱いについての報告(多人数の団体に対する減額措

事務局長会議報告

5月9日

出席会 川崎HC、AC横浜、横浜HC、横浜わらび、藤沢山の会、相模労山、みずなら、久良岐HC、相模山友会、こまくさHC、横浜山楽会、カモの会、雪童山の会、裏山探検隊、やま++ 以上16会

県連からの報告:

クリーンハイク実行委員会の報告。各会担

自然保護委員会記録

記:羽生田

日時:2006年5月29日 19:30~21:15

場所:県連事務所

出席:磯部(地平線の会)、児玉(かもの会)、高橋(横浜HC)、田辺(横浜こぶしの会)、羽生田(AC横浜)、三上(久良岐HC)、吉岡(地平線の会)

1. クリーンハイクに関連する内容

1) クリーンハイク速報

(1) 日程:2006年5月27(土)、28(日)

(2) 天候:雨

(3) 参加者数:()28日清掃登山:237名(うち28名が一般参加)

()27日水質調査:23名

(4) ゴミ回収量:()可燃物:133.2kg

()不燃物:277.7kg

(5) 清掃登山できなかった箇所:

大倉高原(荒天により、担当会が参加しなかったため)

県民の森(ヒルの大量発生により林内に入れなかったため)

塔ノ岳~丹沢山(塔ノ岳より先、風雨が強く安全管理上の判断により)

(6) 登山道整備:講師の自然環境保全センターと調整の上、実施せず。

(7) 備考等:・不燃物の中には、西山林道で回収したタイヤ4本が含まれる。

小屋の周辺にゴミが多かった。

戸川林道には布団や軽トラなどの粗大ゴミが

置など)(村松)

改正保険法のシンポジウム参加報告(小野寺)

ハイキング懇談会報告(小野寺)

女性委員会 全国女性委員会の活動内容の説明(磯部) 女性特有の事故防止を中心以上

当エリアについて。

全国からの改正保険法への遭対基金の適用除外の要望書のための署名活動の要請。

活動報告

梅池から蓮華温泉山スキーで膝の捻挫。

御正体山で鎖骨骨折。

室内ボルダリングで怪我。

以上

多かった。(写真有り)

西山林道の粗大ゴミの写真は、藤沢山の会が撮っている。

県民の森の芝生広場の橋が、渡れるが壊れていた。

ヒル対策に関する朝日新聞の記事を、横浜HC会誌「四季」に掲載してあるので、参考にして下さい、とのこと。

ヒルの大量発生、県民の森の橋の破損については、念のため自然環境保全センターへ報告する。担当は高橋。

3) クリーンハイクのまとめについて

クリーンハイクに参加した各会は、報告、感想、写真を三上さんまで提出する。

締め切り:6月20日程度

提出先:三上まで(E-mail:s-mikami@mpd.biglobe.ne.jp)

クリーンハイク最終実行委員会には、各会からの報告をまとめたものを作成できる予定で動く。

4) クリーンハイク最終実行委員会

日時:6月26日(月)19:30~

場所:県連事務所

内容:クリーンハイクのふりかえり

(「自然保護委員」に関する議題は時間に応じて扱う)

(略)

5. その他意見交換

・主に交通費の支給に関連する意見交換がなされた。(略)

「2006丹沢クリーンハイク」無事終了

実行委員長 吉岡 広明

5月27日、時折小雨の降る中、「2006丹沢クリーンハイク」は無事終了することができました。前夜の天気予報から、当初予定されていた登山道の整備や植樹などは延期または中止となり、クリーンハイク自体の開催も危ぶまれました。それでも天候の回復を見越し、参加の判断を各会や参加者に任せることで、開催を決定したところ、一般参加者28名を含む237名の方が参加してくださいました。当日は、昼過ぎまで断続的に雨の降が降り続き、一部のコースでは多発するヤマビルの被害に悩まされながらも皆さまのご協力によって、登山道や林道、山小屋周辺から可燃物133.2kg、不燃物277.7kgのゴミを回収することが出来ました。併せて、林道を中心とした不法投棄の現状調査や沢や水場の水質調査も実施することができました。クリーンハイクの実施に尽力していただいた実行委員の皆さん、当日の遭難防止にご協力



いただいた県連救助隊の皆さん、実施に際し、様々な助言指導やご協力をいただいた行政及び関係機関の皆さん、そして、当日、参加してくださいました皆さんにあらためて感謝します。そして、このクリーンハイク活動が丹沢の浄化と自然保護活動の啓発に繋がることを祈念してあいさつに代えさせていただきます。

2006年丹沢水質調査速報

神奈川県連盟自然保護委員会

採水日:2006年5月27日(土) 天気:雨

Table with 2 columns: 場所 (Location) and 大腸菌(100ml) (Coliforms/100ml). Rows include locations like 水無本谷, 源次郎, 勘七の沢, etc., with corresponding bacterial test results (陽性/陰性).

計量の対象 = 大腸菌 / 100ml

(財)新日本検定協会

5月27日(土)に実施しました丹沢水質調査は、朝からあいにくの小雨でしたが、無事に終わることができました。ご協力いただいた会の皆様、有難うございました。

昨年からは「大腸菌群」ではなく、水100mlの中の「大腸菌」の検出をしているためこれが陽性 ということは、し尿汚染があるということを示しています。この大腸菌が、人のか哺乳動物のかはわかりませんが、源次郎のツメや勘七のツメでも検出されているので、沢の水は上部でも飲用には適さないと考えられます。

沢の水も、天候などの条件によって大腸菌が検出されたりされなかったりするので、これからもこの調査を続けて、丹沢の水を見守っていききたいと思います。

来年の水質調査にもご協力を宜しくお願いいたします。

神奈川から静岡へ 平和の願いを

2006.5.19 中山 建生

5月19日、神奈川での平和行進は今日湯河原で静岡への引継ぎをしました。

長崎、広島に原水爆が落とされ、すでに半世紀以上の年月が経とうとしています。悲惨で、無用な被爆体験を余儀なくされた人たちが、平和を願う人たちが、広島、長崎まで行進を続ける人たちが湯河原の町を行進し、私は静岡の今井君に労山の核兵器廃絶の旗を引き渡しました。

湯河原はすっかり緑で一杯になり、しばらく前に来た幕岩も緑で囲われていました。前年のリーダー養成学校で世界の山々で登山したくても、戦争や紛争があれば山登りはできないこと、自分の国が戦争をしていれば当然総ての自主的なスポーツ活動は禁止され、戦争に役立つ体力作りに専念されることで、山登りをしたいと願ってもそれは認められないことになるかと話をしました。

今、日本では戦争の道を進もうとやっきになっています。政府は憲法9条を変えて、戦争が出来る国にすること、教育基本法に愛国心を入れて国を思うこと=戦争に行くこと、刑法の共謀罪を新設して戦争反対を訴えたり、平和のために集まろうとする話をただひっ捕らえること、すべてが戦争を準備する方向に向かっているのです。今日は私ひとりの参加になりましたが、神奈川でも各地で行進、座間市、相模原市などでは市をあげて基地強化に反対する運動が起きています。大阪の裁判所では原爆症の認定を合理的に認める判決がでました。戦争への道に進むことを反

対する人たちの声と行動はみなさんにも届いていると思います。登山をする人たちが自然を愛する気持ちを持ち続けることで、世界を破壊と貧困、差別と支配を許さない決意を示せると思います。世界の紛争地となったカンボジア、アフガン、

イラクなどの自然と遺産が破壊され尽くした光景は私たちの心を痛めました。一度破壊してしまえば二度と戻らないものもあります。

今日は雨と予想して、合羽を用意していききました。何年か続けて天気が悪く、雨と風に旗は重くて歩きにくいのでそのつもりでいきましたが、雨は降らずに曇りで[静岡の人たちの熱意で雨が上がった]とあいさつをした人の言葉に、そうかもしれないと感じました。

静岡の今井君が湯河原から熱海まで労山の旗を持って歩いていくのを見送り、横浜へ戻りました。この旗は広島、長崎まで会員の手で運ばれ会員の平和への願いを伝えるものです。世界から核兵器がなくなるまでとの願いです。山を愛する人たちのやさしさ、粘り強さを世界の人たちに示したいと思います。



自然観察会(三浦市)

5月14日(日)、参加者10名。神奈川県山自然保護委員会企画の小網代の森自然観察とヨモギ狩り、ヨモギ団子加工、試食と中身の濃いそれに楽しい計画を実行しました。

講師、計画は吉岡広明さんをお願いしました。

計画の発端は、自然保護の若い会員さんのKさんが、ヨモギを知らないというのでそれではということで話が始められました。

小降りの雨の中、9時AM、三崎口を出発しました。畑の脇から雑木林がはじまっています。あたり一面が常緑樹で湿地帯あり丸太の一本橋ありの非常に変化に富んだ道でした。

ハコネウツギ(箱根の名前でも箱根にはない)、トベラ、ヒサカキ、アカバナツキミソウ(外来種 どて一面にきれいに咲いていた)、ヨメナ、ヒメジヨオン(茎が空洞)、ハルジヨオン(春に見られる)、ハハコグサ、スカンボ、ツルグミ、キブシ(房が青かった)、イヌビワ、カクレミノ(実が葉っぱに隠れるから)、タブ、藤、丸葉ウツギ、アマチャツル、西洋タンポポ、その他書ききれないほど観察しました。急な坂道が危険ということで、迂回路を選択。早めであるが 漁師が経営する地魚料理店に向かう。歩きながらもヨモギ狩りもし 新鮮な野菜購入のおまけつき。

昼食後 金沢文庫に移動。元クリ-ンハイク実行委員長宅にてヨモギ団子加工実習。K



さんお手製のおんこをつけ美味しくいただきました。又ヨモギの緑のきれいさに感激しました。

バスにて金沢文庫に移動。そして名残惜しくも駅にて解散しました。

ヨモギ団子の作り方(概要)

- 1) 上新粉プラスもち粉少々を熱湯で耳たぶくらいのやわらかさにこねる。
- 2) 5センチくらいの小判型に成形。(ややうすめに)
- 3) 20分蒸す。

蒸している間に ヨモギの処理

- 1) 重曹をいれ湯がく。
 - 2) 水にとる。
 - 3) すりばちでする。
- 蒸しあがったらなめらかになったヨモギをこねあわせる。

お好みの形に丸める。 以上

常任理事会報告

6月5日

出席 後藤、渡辺、押本、小野寺、鳥越、小竹、磯部、村松

自然保護(磯部)

クリーンハイクの報告 5月29日 自然保護委員会にて
27日 水質調査 23名、28日 クリーンハイク当日 237名(一般28名)
回収量と各エリアでのゴミの状況の報告
実行委員の交通費について: 現状の予算では支給は困難。

ヒルが大発生。来年はヒル対策が必要では。

遭対部(鳥越)

クリーンハイクサポート 救助隊中心に「道迷いを防ぐ講習会」について。現在20名 引き続き募集中 実技はヤビツから三ノ塔往復
事件事例の扱いについて。事件事例研究会を開催したい(来年?)
北薬師の事故調査に有志で夏に山行を組んでは?
机上講習の内容を連盟ニュースの記事として連載したい。
全国遭対部会報告 第10回遭難対策担

< 2006年度ハイキング委員会活動報告 >

第13期ハイキングリーダー学校は、4月6日、県民サポートセンターに於いて開校式と1回目の講義を行ないスタートしました。今年は6名の受講者を迎え、11月までに5回の机上講習と7回の山行を行ない共に学んでいきます。又課外授業として雪山の低山ハイクなどを計画しています。終了後は、それぞれの会において山行のリーダーとして、安全山行の普及につとめ、会の活動の一躍を担って頂けると期待するものです。

[校長] 中山建生 (みずなら山の会)

[委員長] 増田 徹 (横浜こぶしの会)

[講師] 渡辺三男 (相模労山)

清藤秀子 (川崎ハイキングクラブ)

加藤正敏 (藤沢山の会)

伊藤金吾 (横浜山楽会)

西川憲男 (横浜ハイキング)

小林悦治 (川崎ハイキングクラブ)

[受講者] 角田正夫 (藤沢山の会)

尾崎照雄 (横浜ハイキングクラブ)

萩原福子 (藤沢山の会)

桜庭満子 (横浜ハイキングクラブ)

渡邊和代 (藤沢山の会)

溝呂木由美子 (横浜ハイキングクラブ)

講習内容

4/6 机上

受講者の受付、(清藤) ハイキング委員会挨拶 (増田)

登山と勤労者山岳連盟、県連盟と会活動、ハイキングリーダーとは。(中山)

計画書、報告書の書き方 (加藤)

今年の計画と予定について。今後の山行で必要なものの説明を行いました。

受講者6名、講師4名 (加藤)

4/16 鎌倉

前日の天気予報により山行は中止しとして、10時から横浜のサポートセンターで机上講習をしました。地図の折り方、磁北線の引き方、地図の見方、コンパスの使い方などを説明してから全員に体験してもらいました。その後、昼食を食べながら懇談し、午後1時に終了しましたが、装備の購入のためみんなでコージツへ行きました。

受講者6名 講師2名

5/11 机上

ザイル、カラビナ、シュリングの使い方、ロープの切断方法、テープ結び、簡易ハーネスの作り方、フィッシャーマン、Wフィッシャーマン、エイトノット、ブルージック、ほどき方などを何回も練習しました。

(増田)

受講者6名、講師2名

5/21 鷹取山・岩トレ、ハイキング

鷹取山の岩場にて、ザイル、シュリング、カラビナの使用法と実技を行ない今後の山行において、岩場や鎖場を安全に通過する方法を習得。

最初は緊張していた人も慣れてきて、楽しさや厳しさも理解できるようになりました。

(増田)

受講者6名、講師3名+補助講師2名

鷹取山岩トレに参加して

藤沢山の会 萩原福子

1回目の山行(鎌倉)が雨で机上講習になった為、ハイキングリーダー学校最初の山行です。天気は晴れ、京急追浜AM8時集合、元気に出発となるはずが、なんと乗り換えを間違え30分も遅刻をして皆さんに迷惑を掛けてしまいました。

リーダーは集合時間よりも早く来て、トイレやコンビニの有無等を確認しておく必要がある事を伺い、リーダー学校に来ている自覚が無かったことを反省しました。

トレーニング場にてハーネスを装着し、机上講習で習った事を思い出しながら、ザイルと体をつなぎ登り降りの練習です。怖くてなかなか岩から体を離すことが出来ないのですが、少しずつ体を離して足元が見えるようになって来ました。

次に確保の練習です。講師が登って途中から落ちるのを止めるのですが、とても緊張して怖かったです(落ちる講師のほうがかっこ良かったですよね)。

昼食をはさんでブルージックでの登り降りや、懸垂下降の練習をPM3時頃まで行ない、鷹取山から神武寺駅まで地図と磁石とコンパスで確認しながら帰ってきました。

今回教えて頂いた沢山の事を身に付けることが出来るようにしていきたいと思えます。

講師の方々ご指導ありがとうございました。

遭対基金を守るため、署名運動にご協力を

改正保険業法による遭対基金への影響について

労山遭難対策基金制度は、70年代にはまともな山岳保険がなく、そのため山岳遭難事故への対応を目的に独自の基金を立ち上げるようになった。1971年に傷害のみの保証から出発、72年に捜索・救助費用も対象に加え、74年からは全国統一の基金として再発足し、国の施策の及ばない部分を自分達で補い又自分達の手によって、トラブルもなく今日まで健全に運営され続けてきた。

この間、遭対基金は海外登山・フリークライミングやハイキング3倍給付など年を追うごとに給付の充実を図り、現在700近いクラブの会員数21,000人が加入し(加入率94%)、又安全教育活動などへの補助と他の山岳保険にはない独自の制度として、更に定款の改定・決算や監査など運営上の重要事項は組織の代議員総会によって民主的に決定・承認がなされてきた。

改正法の趣旨は、共済の名前を借りた無認可保険業者(ニセ共済)から消費者を保護するところにあったが、今回公布の政省令で健全な自主共済まで保険業とみなし規制してきた。このたび、他の健全な自主共済3団体(全日本民医連共済組合：民間病院・医院医療従事者49,000人、全国商工団体連合会：中小業者の600からなる民商共済会で共済役員3,000人、

全国保険医団体連合会：開業医師・歯科医師102,000人)と共に「共済の今日と未来を考える懇談会」を結成し、国会議員・金融庁に対し新保険業法の適用除外とすることを求める運動を共同で展開することとなった。

もしこの要求が受け入れられずに、保険業者にさせられた場合の影響を想定すると次の様なことが考えられる。

1. 遭対基金保険業者として保険専門・会計監査に耐えられる体制の確立、全国県連の山岳会・クラブ会員のボランティアからの脱皮が人件費の増加に結びつかないか?
2. 同業者として法人税・事業税の対象となる可能性はないか?
3. 同業者と全国労山間の安全教育対策資金などの授受が可能なのか?
4. 同業者と全国労山間の家賃などの支払いに消費税が課せられることはないのか?
5. 同業者であるがために現行遭対基金の活動や保障枠に制約を受けることはないのか?
6. 既存保険会社に委託の場合、保障内容は大幅に変わることはないのか?
7. 以上から現行遭対基金の保証・給付の低下とならないか?

以上

(川崎ハイキングクラブ運営委員会資料より)

鍋割山荘主催 登山道整備ボランティア募集

実施日時：7月16日(日)、午前8時30分より

道具、材料は鍋割山荘で準備します。

15日及び16日に丸太・杭などのボッカするものもあります。

実施場所：大丸・小丸の稜線

実施項目：水切り、木道整備、脇道の廃止、植生保護対策、崩壊防止策

細かい作業内容については現地を見ながら適切な判断をします。

まとめ役：児玉幸代(AC横浜)自然保護委員

女性の方も出来る仕事はいっぱいあります。

